

旧古河庭園

<http://teien.tokyo-park.or.jp/contents/index034.html>



所在地	東京都北区西ヶ原一丁目 03-3910-0394
開園時間	午前 9 時～午後 5 時
入園料	一般 150 円 65 歳以上 70 円 身障者無料
交通	JR 京浜東北線 上中里駅 下車 徒歩 7 分 東京メトロ 南北線 西ヶ原駅 (N15) 下車 徒歩 7 分 JR 山手線 駒込駅 下車 徒歩 1 2 分 都電荒川線「飛鳥山」下車 徒歩 18 分

武蔵野台地の斜面と低地という地形を活かし、北側の小高い丘には洋館を建て、斜面には洋風庭園、そして低地には日本庭園を配したのが特徴です。

この庭園はもと明治の元勲・陸奥宗光の邸宅でしたが、次男が古河家の養子になった時、古河家の所有となりました。尚、この当時の建物は現存していません。

現在の洋館と洋風庭園の設計者は、英国人ジョサイア コンドル博士（1852～1920）です。博士は当園以外にも、旧岩崎邸庭園洋館、鹿鳴館、ニコライ堂などを設計し、我が国の建築界に多大な貢献をしました。

日本庭園の作庭者は、京都の庭師植治こと小川治兵衛（1860～1933）の手によるものであり、彼は当園以外にも、山県有朋の京都別邸である無鄰菴、平安神宮神苑、円山公園、南禅寺界限の財界人の別荘庭園などを作庭しました。

戦後、国へ所有権が移りましたが、地元の要望などを取り入れて、東京都が国から無償で借り受け、一般公開されました。

数少ない大正初期の庭園の原型を留める貴重な存在で、伝統的な手法と近代的な技術の融和により、和洋の見事な調和を実現している秀逸で代表的な事例であり、また、現存する近代の庭園の中でも、極めて良好に保存されている数少ない重要な事例であるとして、平成 18 年 1 月 26 日に文化財保護法により国の名勝 指定を受けました。

Web サイト原稿

旧古河庭園は、東京都北区にあります洋風庭園と日本庭園が併存するユニークな東京都が管理する庭園ですもと明治の元勲・陸奥宗光の邸宅で、次男が古河家の養子になった時に、ここが古河家の所有となりました。

伝統的な手法と近代的な技術の融和により、和洋の見事な調和を実現している秀逸で代表的な事例といわれています。数少ない大正初期の庭園の原型を留める貴重な存在として、

平成 18 年 1 月 26 日に文化財保護法により国の名勝指定を受けました。

武蔵野台地の斜面と低地という地形を活かし、北側の小高い丘に、英国人ジョサイア・コンドル（1852～1920）設計の洋館があります。その斜面を利用して彼の設計した洋風庭園があり、バラの名園として知られています。

一段下がった低地部に、京都の庭師植治こと小川治兵衛（1860～1933）の手による日本庭園があります。山県有朋の京都別邸として知られます無鄰菴をはじめ、平安神宮神苑、南禅寺界隈の別荘庭園などを作庭した小川治兵衛です。それらのいずれも平坦な廻遊式庭園が中心ですが、ここでは、起伏を利用して茶室を配するなど、治兵衛とはことなる挑戦的な作庭を私は感じました。（素人の意見）

全体的にもコンドルと治兵衛という実積の多い設計者のコラボレーションによる必見の場としておすすめします。

洋館



ジョサイア・コンドル最晩年の作で、大正 6 年 5 月に竣工しました。躯体は煉瓦造、外壁は真鶴産の新小松石（安山岩）の野面積で覆われ、屋根は天然ストレート葺き、地上 2 階・地下 1 階となっています。

大正 12 年 9 月 1 日に発生した関東大震災では約 2 千人の避難者を収容し、虎之助夫妻が引き払った大正 15 年 7 月以降は貴賓の為の別邸となりました。昭和 14 年頃には後に南京政府を樹立する国民党の汪兆銘が滞在し、戦争末期には九州九師団の将校宿舎として接收され、また戦後は英国大使館付き武官の宿舎として利用されました。（東京公園文庫「旧古河庭園」より）



西洋庭園



ジョサイア・コンドル設計で、左右対称の幾何学模様の刈込のフランス整形式庭園と、石の欄干や石段・水盤など、立体的なイタリア露壇式庭園の技法を合わせバラと洋館と調和した絵画的な景観美となっています。

枯滝

水を使わないで山水の景観を表現する「枯山水」の道具立ての一つが枯滝。心字池の洲浜の奥の溪谷に、御影石や青石、五郎太石などで造られています。

日本庭園



小川治兵衛作庭で、心字池を中心に枯滝・大滝・中島を配しています。冬のマツの雪吊ととも巻・ソテツの霜除は風物詩となっています。また夏の大滝の水音と秋の紅葉もおすすめです。



大滝



10数mの高所から落ちる滝。園内のもっとも勾配の急な所をさらに削って断崖とし、濃い樹林でおおって深山の溪谷の趣をだしています。

曲折した流れから始まり、数段の小滝となり最後は深い淵に落ちるといふ凝った造りです。以前は井戸を水源にしていたますが、水源が枯渇し、現在は井戸水と池水の循環でまかっています。

心字池



「心」の字に似せて造った池で、日本庭園の中心。鞍馬平石や伊予青石などで造られ、「船着石」があります。ここは池を眺めるための要となる所で、正面には「荒磯」、雪見燈籠、枯滝、石組、そして背後には築山が見られます。